Ibaraki Association of Architects & Building Engineers

けんちく茨城

No. 86 October, 2014

［特集］
木造の技術習得を通じて、
真に住みよい家づくりを基本から学ぶ
「いばらき木造塾」開講!!

［建築作品紹介］
弘道館――復興までの歩みをたどる

一般社団法人
茨城県建築士会

会報 けんちく茨城

一般社団法人 茨城県建築士会／2014年10月　第86号

目次

[特集1]	木造の技術習得を通じて、 真に住みよい家づくりを基本から学ぶ 「いばらき木造塾」開講!!	1
[特集2]	顧問に聞く 白田 信夫 氏、伊沢 勝徳 氏 インタビュー	4
[報告]	茨城県建築士事務所協会・茨城県建築士会合同開催 「大納涼会」	6
[建築作品紹介]	弘道館――復興までの歩みをたどる	8
[シリーズ]	先輩会員を訪ねて　小室 健一氏、青木 茂氏 インタビュー	11
[会員委員会報告]	第24回チャリティーゴルフ大会開催される	12
	第7回ボーリング大会開催される!	13
[総務委員会報告]	大接戦を制して県央Pチームが見事に優勝!! 第38回ソフトボール大会	14
[青年委員会報告]	関ブロ青年建築士協議会東京大会開催 茨城会は「桜川市くらづくりワークショップ」を報告	15
	関ブロ一斉活動報告 「段ボールハウス教室」「ストローハウス教室」	16
[女性委員会報告]	わくわくセミナー「3Dプレゼンのキモ!」	17
	ラブアークセミナー「魅せ方・魅せ色・好感度アップセミナー」に参加して	18

題字　橋本 昌 茨城県知事

表紙写真　弘道館

所在地　水戸市三の丸1-6-29
建坪　245.32坪（畳数 302.5畳）
構造・規模　木造平屋
創立　1841年（天保12年）

会報 けんちく茨城

2014年10月　第86号

発行　平成26年10月7日（年3回発行）
次回発行　平成27年2月5日予定
発行部数　2,600部
発行所　一般社団法人 茨城県建築士会 会長 柴 和伸
〒310-0852 水戸市笠原町978-30 建築会館2F
TEL.029-305-0329　FAX.029-305-0330
Eメール kyy05413@nifty.com
編集　情報・広報委員会
デザイン　有限会社平井情報デザイン室
印刷所　株式会社あけぼの印刷社

特集
茨城県建築士会
活動報告

いばらき木造塾 開講!!

木造の技術習得を通じて、
真に住みよい家づくりを
基本から学ぶ

茨城県建築士会が主催し、茨城木材相互市場が後援する「いばらき木造塾」が、この6月から開講しています。約10ヵ月をかけ、全10回にわたる講義と実習により、木材や木造建築に関する知識・技術を習得していくこの講座に、初年度となる今年は、若手の建築士を中心に39名の会員が参加しています。第三回までの講義および実習の模様を取材しました。

報告：情報・広報委員会　浅野 祐一郎

ほんとうに住みよい家とは何か、住まい手が幸せに暮らせる家とは何か、住まいとは何かを、基本からしっかり学び、それらを世に広めていくことが住宅設計に携わる建築士の使命ではないか――。

そういった観点に立ち、木材等に関する技術・知識を習得し、住宅設計、木造建築に精通した建築士を育成する目的で、茨城県建築士会では、「いばらき木造塾」を開講した。

今回の講座は全10回。メインとなる講師には、建築家吉田桂二氏に師事し、「木の建築学校」などの講師としても活躍中の松本昌義先生を迎え、2014年6月の第一回から来年3月の第十回まで約10ヵ月にわたって行われる。初年度は、若手の建築士を中心に39名の受講者が集まった。

第一回　6月14日(土)
開講式、初講義

第一回には、開講式が行われ、主催者である柴会長が挨拶に立ち、「いばらき木造塾」開講の意義を

第一回　6月14日㈯【講義】

［講師］松本 昌義氏　［内容］開講式／前半：生活と間取り（広がり間取り）、日本人の生活実感を反映させた間取り／後半：2階から考える間取り

第二回　7月12日㈯【実習】

［講師］菊池 均氏　［内容］木材の加工技術の習得：木組、仕口、継手、組手、梁・桁の大きさ、決め方と仕口・継手・組手について／桁成・梁成と桁巾・梁巾の断面寸法 ほか

述べられた。続いて、松本昌義先生による最初の講義が始まり、前半では、「住宅計画における間取り計画の留意点」について、スクリーンに資料を映し出しながら説明。

大切なことは間取りの良し悪しを判断できる目を養うこと。生活の視点から間取りを捉えるときに、部屋相互のつながりを重視して内外共に開放性を高めた間取りを、松本先生は「広がり間取り」と呼んでいるが、これは、とりわけ新しいものではなく、その原点は日本の伝統的な住まいにあるということ。玄関は引き戸で区画して独立させ、家族空間に直結させること。家族空間は一体的につくることなど、基本的なことを解説いただいた。

また、後半では、与えられた課題から与条件の把握、間取りの手順、面積算定、ゾーニング計画の留意点など計画の進め方についての講義が行われ、さらに、受講生全員に、宿題として「2階建て小住宅の平面計画」の課題条件が与えられ、第三回講義の際に、成績評価および講評があることが伝えられた。

第二回　7月12日㈯
木材の加工技術の習得

第二回は、「木材加工の現場実習」と題して、建築士会会員であり、木造塾メンバーでもある「樹輪」代表 菊池均氏の大子町にある作業場において実施された。

菊池氏から、木造住宅の現場では、工期短縮の観点からプレカット加工と金具補強が主流となり、知識・技術をもった職人が不足している現状が伝えられたあと、在来木造の仕口、継手を伏図と照合しながら、木材を加工する手順を学んだ。継手においては追掛大栓継ぎ、仕口においては兜蟻継ぎの、墨付けから刻み加工までの手順が、「樹輪」の職人さんの手によって披露され、受講者たちは、メモを取りながら、初めての実演作業を熱心に見つめていた。

いばらき木造塾

第三回　8月9日㈯【講義】

［講師］松本 昌義氏　［内容］前半：配置計画の要点／後半1：各スペースの要点1（家族スペース）／後半2：家の形と間取り、屋根の種類と特徴、高さ関係の押え方

第四回以降

第四回　平成26年9月13日㈯
［講師］建築士会
［内容］施主アピール：施主からの聞き取り、営業トーク、手描きパース演習

第五回　10月11日㈯
［講師］松本 昌義氏
［内容］前半：各スペースの要点2(個人、水廻り、収納）後半：構造と間取り1　架構グリットプランニングによる間取り（小屋架構、2階床架構と間取りの整合）

第六回　11月8日㈯
［講師］菊池 均氏
［内容］木材の加工実習

第七回　12月13日㈯
［講師］松本 昌義氏
［内容］前半：構造と間取り2 小屋、2階床架構のパターン、部材断面の目安、下屋の取り付け方／後半：継手、仕口の基礎知識

第八回　平成27年1月10日㈯
［講師］建築士会
［内容］講義、演習

第九回　2月14日㈯
［講師］松本 昌義氏
［内容］前半：木材の基礎知識 木材の特性、値段、乾燥等／後半：建具デザイン基礎知識、又は計算による梁部材断面の求め方

第十回　3月14日㈯
［内容］講話：建築家 鈴木久子氏の話／閉講式

第三回　8月9日㈯
課題の採点結果発表

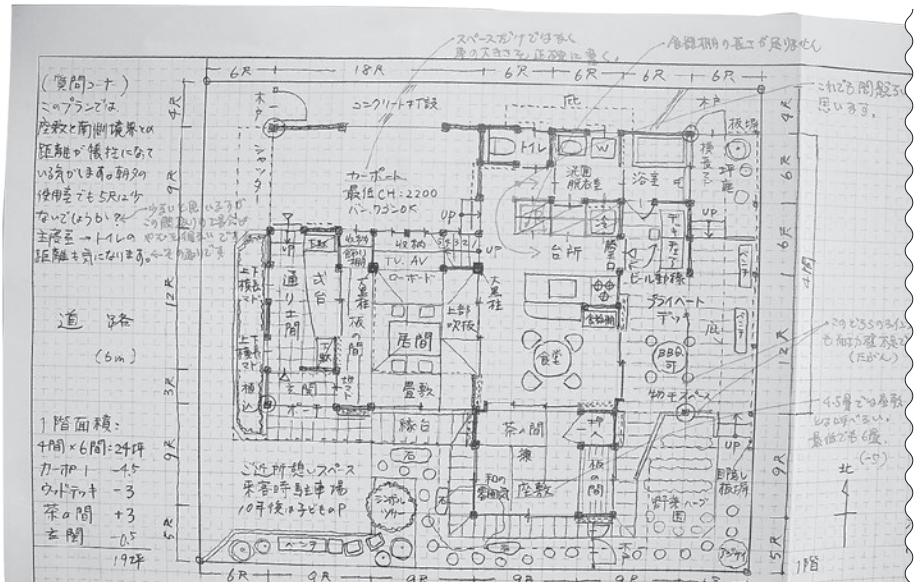
第三回は、再び松本先生による講義。前半では、第一回に宿題とされた「2階建て小住宅の平面計画」の課題に、松本先生による丁寧な講評および添削結果が書き込まれたものが受講者それぞれに配られ、なかでも評価の高かった上位5点の作品が紹介された。

後半は、住宅の基本計画に戻り、配置計画の要点として玄関、家族スペース、居間食堂、茶の間・座敷の考え方、外観計画として屋根形状、屋根勾配と屋根葺材の関係、高さ関係の押さえ方などを講義いただいた。

以上が「いばらき木造塾」の第三回までの内容である。今後も、来年3月までに行われる7回の講義および実習で、木造住宅をつくるうえで、基本となる考え方や技術をさらに学んでいくことになる。

「いばらき木造塾」の後半の様子も、機会を見て本誌上でご報告できればと思う。

第一回の講義で出された「2階建て小住宅の平面計画」の提出課題のなかで、評価の高かったもののひとつ。松本先生による丁寧な添削が加えられている。



顧問に聞く

当会顧問である白田氏と伊沢氏に、
ご自身の活動や、建築士・建築士会に
望むことなどを伺いました。

茨城県建築士会顧問・茨城県議会議員

白田 信夫 氏

Hakuta Nobuo

「空家対策、中古住宅活用にも、建築士の専門知識を活かした取り組みを」

茨城県建築士会顧問・茨城県議会議員 白田信夫氏に伺いました。

――県議会議員として、どのようなことに取り組んでいらっしゃいますか。

私は、県議会議員5期を通じて、茨城県はもとより、それぞれの地域が活気にあふれ、日本人の心のよりどころである「ふるさと」を守るために地域振興が重要と考えています。具体的には、おもに次の八つを政治理念として政策に取り組んでいます。①高齢者福祉対策 ②子育て支援対策 ③医療対策 ④交通網の整備 ⑤防犯防災の体制つくり ⑥教育の充実 ⑦観光の発展、地元観光のPR ⑧農業、地場産業の活性化。地域一番のサポーターとして、茨城の発展を願い、実現に向け全力で邁進していきます。

――顧問として、建築士会の活動をどのようにとらえていますか。

会員の皆さんがいろいろな事業でがんばっていますが、とくに、東日本大震災以降、歴史的な街並みや建造物が急速に失われていくことを危惧し、歴史的建造物の調査を行う専門家や伝統的な工法による修復などの技術を持った技術者の育成を目的として行われているヘリテージマネージャーの育成研修は、建築の専門家ならではの活動で、大変良いことだと思っています。また、地球温暖化対策への取り組みとして数年前から行われている「苗木配布活動」も、多くの方を対象に緑化運動を推進していて大変良い活動と思っています。いただいた方も記念になり、そして環境への意識を高めることにもなります。今後も永く続けていただきたい。

――建築士会会員に向けてのメッセージをお願いします。

7月29日に総務省から平成25年住宅・土地統計調査の結果の速報値が発表されました。それによりますと調査対象は約21万調査区域、総住宅数は6063万戸と、5年前に比べ305万戸（5.3%）増加。空き家数は820万戸と、5年前に比べ63万戸（8.3%）増加。空き家率は、13.5%と0.4ポイント上昇し、過去最高となりました。別荘等の二次的住宅を除いた空き家率は、山梨県の17.2%が最も高く、わが茨城県においては13.9%で全国で21番目です。茨城においても、実にほぼ7軒に1軒は空き家ということになります。今後は少子化、人口減少によって、世帯数も減少傾向にあり、ますます家余りの状況が避けられないものの、新築住宅の供給は続き、中古住宅の活用が遅れています。自治体などで手を打ち始めているところもありますが、空き家の増加に追い付いていないのが現状で、今後は建築士の力も借りて、官民挙げて知恵を絞る必要があると思います。ぜひ建築士会会員の皆さんにも、空き家対策、中古住宅の活用対策を意識した活動をお願いできればと思っています。（聞き手＝情報・広報委員会　浅野 祐一郎）

はくた・のぶお
おもな経歴：真壁町議会議員（3期）／茨城県議会議員（5期）、保健福祉・環境商工・総務企画・議会運営などの各委員長や、茨城県議会副議長、茨城県監査委員、茨城県議会議長などを務める。平成17年より当会顧問に就任。

茨城県建築士会顧問・茨城県議会議員

伊沢 勝徳 氏

「災害に強い県土づくりには、建築士・建築士会の力が欠かせません」

Izawa Katsunori

茨城県建築士会顧問・茨城県議会議員 伊沢勝徳氏に伺いました。

――県議会議員として、どのようなことに取り組んでいらっしゃいますか。

元気ある茨城の実現に向けて、七つの目標を掲げ取り組んでいます。一つ目は「福祉」です。３世代家族で育った経験を活かします。二つ目は、「交流拠点づくり」。若者の代表として、夢のある地域の発展を目指します。三つ目は「産業の活性化」。四つ目は「安心・安全」です。消防団の一員として治安の確保を目指します。五つ目は「男女共同参画社会 」。女性議員の秘書の経験を活かして、働く女性の支援に取り組んでいます。女性の社会進出・活躍は大切なことですので、結婚・出産・子育てに伴う負担を、行政の立場から少しでも軽くしていきたいと考えています。そして、六つ目は「元気な土浦」。土浦で育った地元っ子として元気のあるまちづくりを推進します。

最後に七つ目となるのが、「ひとづくり」です。私自身も子育て世代ですので、「子供たちの将来のためのまちづくり」に力を入れています。今の地域社会のより良いものを、次世代につなげていくことが、政治の使命として大切なことだと思います。

――顧問として、建築士会の活動をどのようにとらえていますか。また今後どのようなことに取り組むべきだと考えますか。

私は地元で消防団に参加しておりますが、団員として東日本大震災を経験したことからも「災害に強い県土づくり」「安心・安全なまちづくり」を訴えています。県民の命・財産を守ることは政治の一番大切な使命でありますが、耐震診断・耐震補強等を始め、建築士・建築士会の果たす役割もきわめて大きいものがあると考えます。技術が進めば進むほど、建築の専門性も問われるでしょうし、少しでも被害を軽減できるような活動を強化していただきたいと思います。

――建築士会会員に向けてのメッセージをお願いします。

とくに若い建築士の方々には、これから主力となっていくなかで、自分たちが中心の世代となったときのまちづくりというものを考えながら行動していただければ、建築士会の発展につながると思います。

最後に、建築士会・建築士の皆様のますますのご活躍をお祈りいたします。

(聞き手＝情報・広報委員会　五十君 智子)

いざわ・かつのり
おもな経歴：平成14年、茨城県議会議員に初当選し、現在３期目／県議会文教治安委員長、土木企業委員長等を経て、現在、予算特別委員会副委員長、決算特別委員会副委員長を務める。平成25年より当会顧問に就任。

茨城県建築士事務所協会・茨城県建築士会 合同開催

大納涼会

平成26年7月25日㈮ 17:00～
水戸市・ホテル テラス ザ ガーデン 水戸

夏の恒例行事となった第9回大納涼会が7月25日㈮「テラスザガーデン」において開催された。

本年度も茨城県建築士事務所協会との合同懇親会となった。今年は、来賓、会員、賛助会員、建築士事務所協会から、合わせて214名の参加者があった。

はじめに、建築士会、建築士事務所協会を代表して、茨城県建築士事務所協会の横須賀会長から挨拶があった。続く来賓挨拶では、梶山弘志衆議院議員、田所嘉徳衆議院議員代理として田所夫人、高橋靖水戸市長、海野透県議会議員、白田信夫県議会議員、伊沢勝徳県議会議員、石川多聞県議会議員よりそれぞれご挨拶をいただいた。また、県土木部建築三課より江原建築指導課長、山田営繕課長、中村住宅課長にもご出席いただいた。

その後、西野一県議会議員の乾杯の発声により祝宴に入った。

例年どおり、来賓、建築士会および事務所協会の正会員、賛助会員の方々が笑顔で交流を図る場面が会場のあちらこちらで見受けられ、たいへん有意義な会となった。

祝宴は盛況のうちに進み、建築士事務所協会賛助会代表幹事の山﨑文治氏の中締めにより終了した。

ご来賓のみなさま

事務所協会会長
横須賀満夫氏

衆議院議員
梶山弘志氏

衆議院議員
田所嘉徳氏夫人

水戸市長
高橋靖氏

県議会議員
海野透氏

県議会議員
白田信夫氏

県議会議員
伊沢勝徳氏

県議会議員
石川多聞氏

県議会議員
西野一氏

式次第

開会の言葉
主催者あいさつ
来賓あいさつ
来賓紹介
乾杯
中締め

［建築作品紹介］

弘道館 ──復興までの歩みをたどる

**震災による甚大な被害から
慎重かつ大がかりな復旧工事を経て、
3年ぶりに全面公開が再開された
国指定特別史跡・重要文化財「弘道館」。
その復旧工事の過程を
あらためて振り返る。**

資料提供──弘道館事務所

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、弘道館は甚大な被害をうけました。災害復旧工事は、旧弘道館復旧整備検討委員会によって決定された方針に基づき、平成24年4月から開始されました。文化財の修復工事ですので、古い材料や伝統的な工法を踏襲する一方、今後の大きな地震に備えて構造的な補強もあわせて工事が進められました。弘道館の災害復旧工事は、平成26年3月に完了しました。おもな復旧工事の模様は次の通りです。

正庁・至善堂【重要文化財】（国有）

正庁・至善堂は、土壁の剥落や割れが随所にみられ、屋根瓦も一部が割れたり、ずれが生じました。また、建具の変形や壁紙の破損、襖や障子の破損も数多くみられました。

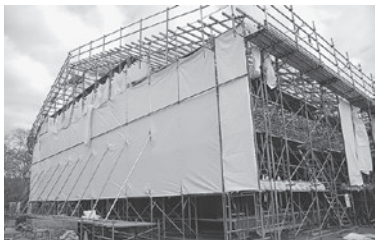
工事は、正庁・至善堂の全体に覆屋をかけ、天候に左右されずに工事が進められました。畳は、工事中に傷をつけないようにいったん取り外して格納し、畳替えをしました。建具も取り外し、破損したものは修理を行いました。

屋根の瓦は、いったんすべて取り外しました。中には江戸時代の古い瓦も使われています。文化財の修理では、古い材料も使いながら残していくことが必要ですので、一度取り外して瓦の健全度を確認し、できるだけ再使用しました。破損した瓦は古い瓦にならって新たに作製しました。

屋根瓦を取り外したのち、地震によってずれた柱などを修正しました。凹凸が生じた床は、柱の足元に鉛板を敷いて高さを調節し、平らな状態に戻しました。

壁は、破損の状況に応じて修理の方法を分けました。壁土が落ちたり浮いている箇所は下地から、壁土は残っているが割れている箇所は中塗から、その他の壁は上塗からの補修と、健全な壁を活かしながら修理しました。修理に使う土は、粘りと強度を出すため、藁と混ぜて発酵させた土を使いました。

今回の工事にあわせて耐震補強工事も行いました。地震時に建物が変形して倒壊しないように床下に筋交いを設けたり、小屋裏（天井裏）に鉄筋ブ



正庁・至善堂全体にかけられた覆屋

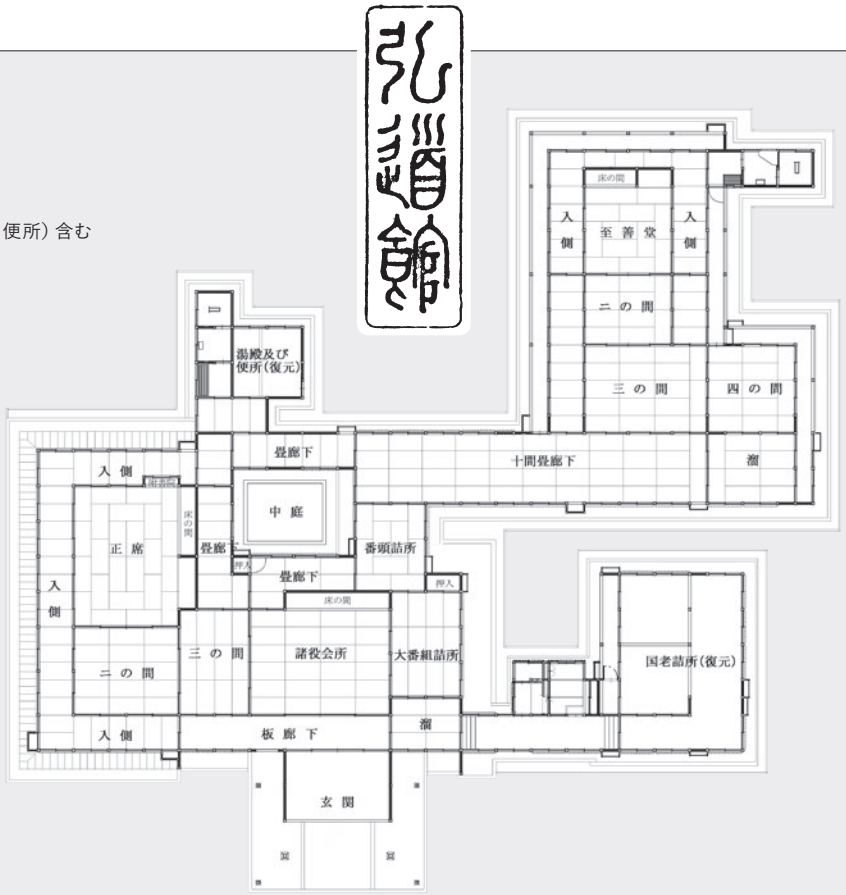
約2万5千枚あった屋根瓦は、いったんすべて取り外された

小舞下地からの修復の様子

弘道館

所在地　水戸市三の丸1-6-29
建坪　245.32坪
　　＊復元部分（国老詰所・湯殿・便所）含む
畳数　302.5畳

水戸藩の藩校。9代藩主徳川斉昭が天保12(1841)年に創立。15歳以上の藩士子弟を教育し、水戸学の尊王攘夷思想を積極的に広めるとともに、実用主義の立場から西洋医学も取り入れた。明治元（1868）年弘道館の戦いで、文館・武館・医学館などが焼失。昭和20(1945）年8月戦災で鹿島神社、孔子廟、八卦堂などが焼失。昭和27(1952)年、旧弘道館として国の特別史跡に指定される。昭和38(1963)年に大修理及び一部復元完了。昭和39(1964)年正門・正庁・至善堂が国の重要文化財に指定される。平成23(2011）年の東日本大震災により大きく被災するが、平成26(2014）年3月に復旧工事が完了。3年ぶりに全面公開を再開している。



レースを取り付けましたが、文化財の建物であることを考慮して、これらの補強は目につかない場所に設けました。

正庁湯殿付便所・至善堂便所・国老詰所（県有）

復元部分である正庁湯殿付便所・至善堂便所・国老詰所は、地震により至善堂便所の壁の崩落や国老詰所の壁の亀裂などがみられました。

工事では、瓦の葺き直しや壁の修理、耐震補強工事を行いました。

正門袖塀【重要文化財】（国有）

正門は、地震での損傷はほとんどありませんでしたが、両脇の袖塀の瓦や壁が壊れました。

工事では、袖塀の瓦をいったん取り外して葺き直しました。壁は下地から補修しました。また、基礎石の割れたものを取り替え、表面が剥落したものは化粧直しを行って補修しました。

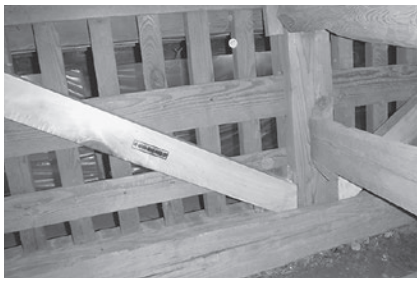
築地塀（県有）

復元部分の築地塀は、瓦の落下やずれが生じ、壁面にひび割れが見られました。破損した瓦は古い瓦にならって作製し、葺き直しました。

孔子廟 本殿（県有）・戟門及び袖塀（国有）

本殿は、地震によって柱の下部が外側に開き、板壁や長押に隙間が生じました。また、蔀戸や板戸の脱落や釘隠の欠損もみられました。犬走りには多数の亀裂が発生しました。本殿の復旧工事は、軸部（柱）の締め直し、長押の取り替え、犬走りの三和土敲きのやり替えなどを行いました。

戟門（表門）は、大きな破損はみられませんでしたが、柱に傾斜が生じたため、修正を行いました。一方、袖塀は壁が落ちたり、基礎石が外れたりと被害が大きかったので、壁については下地から塗り直し、基礎石については外れた石の積み直しを行いました。塀部分は瓦の葺き替えも行いました。


外からは目に付かない床下の木製筋交い

正門基礎石の修理の様子

孔子廟本殿軸部（柱）の締め直し

学生警鐘（国有）

弘道館の建物の中で最も地震の被害が大きく、鐘楼は倒壊してしまいました。木材や瓦などの部材はいったん格納し、再使用が可能かを確認して建て直しました。破損が大きく、再使用できない部材は、同種材を用いてもとの形にならって作り直し、目立たないように古色塗りも行いました。また、地震への対策として、柱の腰回りに新たに補強の部材を取り付けました。

弘道館記碑（国有）

弘道館記碑は、震災によって碑面の約半分が崩落するという大きな被害をうけました。

修復の準備として、崩落してしまった碑身（ひしん）の破片を落下位置を記録しながら採集し、碑身はさらなる崩落を防ぐために梱包材で固定しました。碑身の修復は別の場所に移動して行いました。碑身を移動するため、八卦堂を高さ2mほど持ち上げ、堂の入口から慎重に碑身を運び出しました。修復は、震災前の姿にもどすために、写真や拓本などと照合して碑身の破片を組み合わせていきました。次の地震に耐えられるように補強材なども使用して慎重な修復を行いました。

「弘道館の被災と復旧」一覧

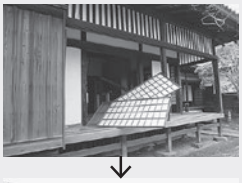
種梅記碑
碑身の傾斜

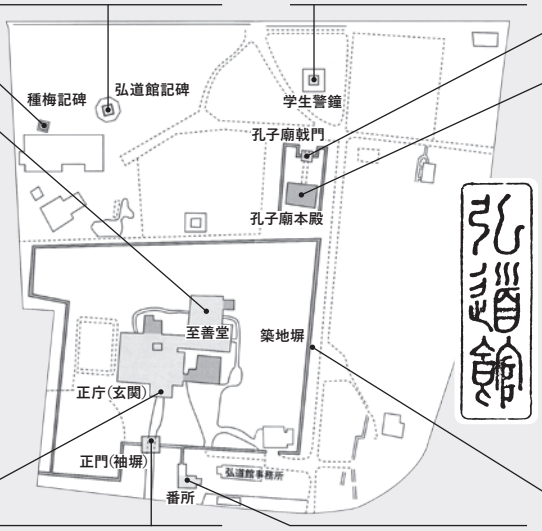
弘道館記碑
碑身の一部崩落

学生警鐘
鐘楼の全壊

孔子廟戟門
門柱の傾斜・ずれ、袖塀の破損

至善堂
屋根の損傷・内外壁の剥離・亀裂・建具損傷





孔子廟本殿
軸部のずれ・戸の脱落

正庁（玄関）
内外壁の剥落・亀裂

正門（袖塀）
袖塀の損傷

番所
内外壁の剥落・亀裂

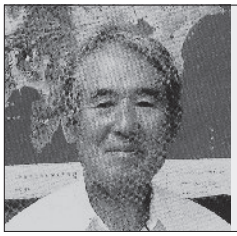
築地塀
瓦の落下・壁の損傷

シリーズ第24回

先輩会員を訪ねて

士会会員として長きにわたり活躍されてきた先輩方を訪問し、
お話を伺うコーナー。第24回となる今回は、
日立支部の小室 健一氏と、
行方支部の青木 茂氏を訪問し話を伺いました。

聞き手＝情報・広報委員会　石黒 幸喜、中村 正明



「建築士会を活性化すれば、建築士自身も向上します」

小室 健一 氏（日立支部）

昭和17年生まれ／昭和48年入会／会員歴41年

日立市生まれ。父のもとで修業をし、31歳のときに一級建築士の資格を取得。ほぼ同時期に、父親の経営する設計事務所及び測量登記事務所を引き継ぎ、二代目として現在まで兼業を続ける。土地家屋調査士、一級建築士及び宅地建物取引主任者の資格を持ち、地域に密着した業務を主として熱心な活動を続ける。日立支部では監事としても活躍する先輩会員。

――会の活動として印象に残ることは？

親睦レクリエーションとして、士会のソフトボール大会県大会に参加し日立支部優勝に貢献できたことや、日立港がない時代の久慈川河口での地引網が思い出に残っています。今でも士会のチャリティーゴルフには毎年継続して参加しています。

――趣味として続けていることは？

仕事一筋で無趣味です。ただ息抜きと健康のため果物や野菜を作り収穫の喜びを味わっています。

――後輩へのメッセージをお願いします。

建築士会を活性化すれば、建築士自身も向上しますので、皆さん、ますます会を盛り上げるようがんばっていただきたいと思います。（石黒）

「新潟での２度の応急危険度判定活動が印象に残ります」

青木 茂 氏（行方支部）

昭和22年生まれ／昭和55年入会／会員歴34年

青木一級建築設計事務所所長。大工職人であった父親の影響を受け、昭和55年に建築士となり、その後55年2月に設計事務所を開設。行方支部では、平成10年から平成11年までの2年間、支部長を務める。温厚な人柄に、周囲からの信頼も厚い先輩会員。

――会の活動として印象に残ることは？

応急危険度判定士として、2回にわたり新潟県で判定活動を行ったことです。そして、青年部時代にさまざまな活動をしたことも深く印象に残っています。

――趣味として続けていることは？

趣味はスポーツをすることです。動くことが好きなので、ソフトボールは小学校時代からのメンバーとチームを組み、今でもプレーを継続しています。また、地区内のメンバーとゴルフをして楽しんだり、ウォーキングサークルでの活動も行っています。これからも体が動く限りずっと続けていきたいと思います。

――後輩へのメッセージをお願いします。

建築士として活力ある後輩がどんどん出てきてくれることを期待しています。今後も会の発展のためにがんばってください。（中村）

第24回チャリティーゴルフ大会開催される

平成26年6月24日㈫　笠間市・富士カントリー笠間倶楽部

初優勝、おめでとうございます！

チャリティーと会員の親睦を目的とした恒例行事「チャリティーゴルフ大会」が、6月24日㈫、笠間市・富士カントリー笠間倶楽部において開催されました。

当日は、各支部から正会員、賛助会員入り混じっての107名が参加。全18ホール、新ペリア方式で熱戦が繰り広げられました。結果は、「個人の部」では県央支部の丸山好史氏が、「女子の部」では県央支部の市毛啓子氏が、「団体の部」では県央支部Aが、それぞれ優勝に輝きました。

プレー終了後は、懇親会を兼ねた表彰式が倶楽部内レストランにおいて開催され、主催者の柴会長挨拶の後、建築士会からチャリティー金20万円が茨城県立あすなろの郷に寄付されました。参加者全員で乾杯の後、ニアピン賞、ドラコン賞、団体賞、各個人賞の発表が行われ、和やかな雰囲気のなか、パーティは終了しました。

個人の部		
優勝	丸山 好史（県央）	ネット70.6
準優勝	小沼 隆志（県央）	ネット71.0
3位	木村 千明（久慈）	ネット72.4
ベスグロ	小暮 真一（石岡）	グロス82

団体の部		計
優勝	県央A	グロス353
準優勝	石岡	グロス366
3位	県庁A	グロス376
4位	賛助会	グロス378
5位	県央B	グロス396

チャリティー金の贈呈

表彰式

第７回ボーリング大会開催される！

平成26年8月23日㈯　大学ボウル 水戸店

女子も大健闘！

第７回ボーリング大会には、各支部から会員、賛助会員合わせて59名が参加。

始めに、実行委員長の根本勝義会員委員会委員長より主旨説明があり、その後柴会長の始球式によりゲーム開始！ ガターあり、ストライクありでゲームは楽しく和気あいあいと進み、個人戦では、2ゲームを投げトータルスコア352で、萩谷孝一氏（県央支部）が優勝しました。また、団体戦では上位３名のトータルスコア895を記録した建築センターAチームが見事優勝しました。

プレイ終了後は表彰式と懇親会が行われ、会員の家族を含む参加者全員で交流を深めました。

個人の部		スコア（2ゲーム合計）
優勝	萩谷 孝一（県央支部）	352
準優勝	阿部 義博（県央支部）	337
3位	笹沼 孝行（賛助会）	300
4位	大畠 勝（賛助会）	297
5位	武村 実（桜川支部）	288

団体の部		スコア（上位3名合計）
優勝	建築センターＡ	895
準優勝	桜川支部Ｂ	804
3位	桜川支部Ａ	784

根本会員委員長による主旨説明

チームワークの良さで勝負です！

惜しくも２位の桜川支部Ｂチーム

大接戦を制して県央Pチームが見事に優勝!!
第38回ソフトボール大会（県大会）

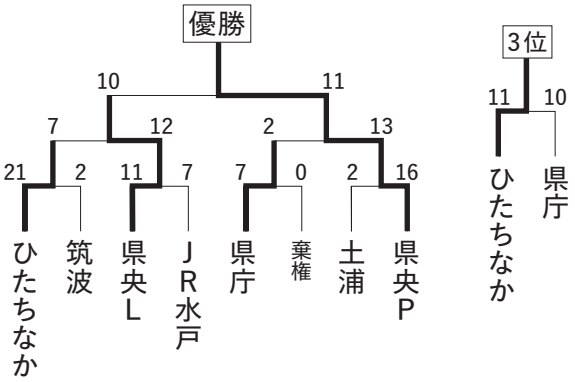
見事優勝を果たした県央Pチーム

平成26年9月6日㈯、東野市民運動場グランドにて、第38回ソフトボール大会（県大会）が開催されました。

残暑厳しいなか、県内各地域の予選を勝ち抜いた総勢7チームによるトーナメントが行われ、伯仲した熱戦が展開されました。各チームとも精一杯力を出しきったのではないでしょうか。

今大会優勝に輝いたのは、総合力と運も味方した県央Pチームです。県央Pチームの皆さん、おめでとうございます。お忙しいところ各支部から参加していただいた皆さん、ありがとうございました。来年の39回大会でも、また皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

最後になりますが、大会準備をされた総務委員会及び県央支部の皆さん、また、協賛いただいた㈠財）茨城県建築センター、センター印刷㈱、明治安田生命保険相互会社の3社の皆さま、ご協力いただいた方々、選手、事務局の皆さんに感謝申し上げ、ソフトボール大会（県大会）の報告といたします。



青年委員会報告
委員長
飯島 洋省

関ブロ青年建築士協議会東京大会開催
茨城会は「桜川市くらづくりワークショップ」を報告

ホテルイースト21東京にて

6月20日㈮・21日㈯にかけて、関ブロ東京大会2014が、『「未来」を「走れ」「織りなせ」「動かせ」～今、ひとつになる～』の大会テーマのもと盛大に開催されました。茨城県建築士会からは、青年・女性委員総勢58名で参加しました。

第一分科会の活動報告では、茨城代表で桜川支部の高宮英司青年委員が、『「くらづくりワークショップ」歴史的建造物を活かし、地域を生かす取り組みから見えてくるもの』と題し桜川市での取り組みを発表しました。残念ながら入賞には至りませんでしたが、地域に根ざした茨城県らしい実践活動が報告できたかと思います。

また、全体会議1に続き、第二分科会では、「未来を織りなせる新たな建築士像の創造」をテーマに各パネラーを迎えてのディスカッションが、第三分科会では「建築士会・会員の未来の為に～ひとづくり＋しごとづくり～」と題した討論会が行われ、いずれも活発な議論が展開されました。

最後に、全体会議2で大会結果報告が行われ閉会となりました。その際、茨城県青年女性委員会委員長を務める私、飯島が、次年度関ブロ青年協議会の会長を拝命しました。次回の群馬大会、きっと楽しいことが待っていると思いますので、ぜひ今年以上のご参加をお願いします。

青年委員会報告

県央支部
横須賀 孝

関ブロ一斉活動報告
「段ボールハウス教室」と「ストローハウス教室」

段ボールハウス「完成したらお家に持って帰りたい！」

去る8月10日㈰と8月15日㈮の2日間、今夏の関ブロ一斉活動として、「段ボールハウス教室」と「ストローハウス教室」が、筑波海軍航空隊記念館において開催されました。これは、筑波海軍航空隊記念館で終戦の日に合わせて企画された子供向けイベント会場の一角を借りる形で、青年女性委員会主催で開催したものです。

両日共に夏休み期間中ということもあり、会場は多くの家族連れで賑わいました。特に段ボールハウスに関しては大盛況でした。

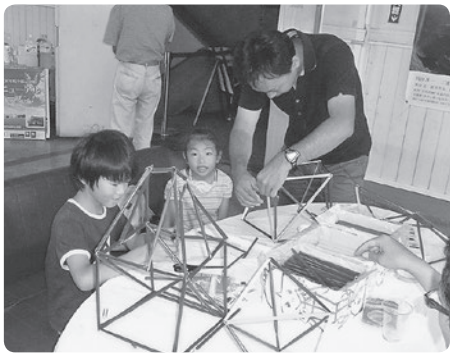
子供たちを3つのグループに分けて3棟のハウスを作ったのですが、同じ図面を基にして作成しているはずなのに、子供たちの独創性により、それぞれ個性溢れるハウスが完成しました。3棟作ったうちの1棟は、かなり大きなものであったにもかかわらず、作った子供たちが欲しがり、そのまま持って帰ってくれました。

ストローハウスに関しても、多くの子供たちが参加してくれて、それぞれが工夫を重ねて個性的な図形や骨組みを作り、持ち帰ってくれました。

興味深かったのは、最初は見ているだけだった親御さんたちも、最後は一緒になって夢中でストローを組み立てていることでした。

自分たちの手を動かして物を作る喜びという体験を通して、子供たち（そして親御さんたちにも）物作りの楽しさというものを感じてもらえたのではないかと思います。

今後も、子供たちと一緒に物作りを体験するような企画を通じて、物作り、そして建築士という仕事に興味を持ってもらえるよう、活動を続けていければと考えています。



ストローハウス「夏休みの宿題にできるかな～？」

女性委員会報告

稲敷支部
池田 恵子

わくわくセミナー

「3Dプレゼンのキモ！」

写真上：セミナー風景／下：「3Dマイホームデザイナー・プロ」で作成した外観・内観パース

7月29日㈫、夏の暑さの真只中、メガソフト株式会社の井町社長をお迎えして、デジタルプレゼンについて講義していただきました。

メガソフト社は、1996年に、一般家庭向けの「3Dマイホームデザイナー」のソフトを開発。その後設計者向けの「3Dマイホームデザイナー・プロ」を開発し、多くの利用者を得ている会社です。

家庭向けの3Dソフトが出て、新築・改築を考えている人たちが、自分たちの家がどのように出来上がるのかを容易に想像できるようになってきた現在、私たち設計に携わる者も、自分の頭の中の図面を可視化することが求められるようになりました。彩色ができて立体的に見えることは、施主へのプレゼン時に力強い味方となってくれます。

コンピュータがこれほど身近になる前は手書きのパースに色鉛筆や絵の具で彩色してプレゼンを行っていました。それには高額な料金と時間が必要とされ、住宅の場合などは、線画のみで施主に説明しなければならず、大変な思いをしていた方も多いと思います。

現在は、コンピュータと手軽なソフトのお蔭で、情報を入力するだけで外観・内観パースが一瞬ででき上がります。まるで魔法使い！　汗をかきながらの講義に、井町さんの熱意が感じられ、時が経つのを忘れるようでした。

講師の井町良明氏

女性委員会報告

県央支部
照山 由美子

ラブアークセミナー

「魅せ方・魅せ色・好感度アップセミナー」に参加して

高感度をアップする色の選び方について説明を行う講師の根本登茂子先生

梅雨が明けず鉛色の空となったセミナー当日の6月28日㈯。普段なら室内にいたいような空模様でしたが、今の自分に＋αを可能にする色の術を学べるとあって、会場である隠れ家のようなレストラン「フェリチタ」に、会員20名が集まりました。

今回のテーマの「色」ですが、日本の色の歴史を辿ってみると、飛鳥・奈良時代に大陸からもたらされ、権威の象徴として使われた極彩色、かな文字の発達と共に季節の微妙な色合いを歌に詠み、身に纏うセンスが問われた平安時代の柔らかく雅びやかな色調、庶民の文化が花開き制約の中で多彩な鼠や茶を染めて粋を競った江戸時代――私たち日本人はこんなにも豊かな色彩の歴史を生きてきたのかと驚かされます。また、色は組み合わせることによって単色にはない新しい魅力が生まれます。

Ⅲ部構成で進められた講座を通して、色が個人のイメージ作りにも応用できることを学びました。洋服やネクタイの色を工夫すれば自分の印象をなりたい自分に合わせて変えられるはず…なのですが、なかなか自分に似合う色を見つけるのは難しい作業でした。

限られた時間でしたのでカラー診断を全員分できなかったのがとても残念でした。次回、もし、私が担当するときには、応用編として色を軸とした風水を中心としたセミナーを開催できたらと思います。

最後は気持ちをリセットする意味を持つ“白色”のフランス菓子ギムーブで締めくくられ、実のある美味しいセミナーとなりました。

カラー診断の様子。時間的制限で全員に行えなかったのが残念！